令和４年 12 月９日

曽於市立高岡小学校　校長死亡事故報告書

鹿児島県

曽於市教育委員会

高岡小学校校長死亡事故報告目次

1　事故の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（1）事故発生日時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（2）気象概況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（3）事故発生場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（4）人身事故状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（5）事故の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（6）死因等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（7）事故後の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2　樹木の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（1）事故当時の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（2）これまでの管理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（3）イチョウの木について・・・・・・・・・・・・・・・・・7
（4）木材としての利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

3　事故の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（1）樹木医による検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（2）日本樹木医会鹿児島県支部による検証・・・・・・・・・9
（3）その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

4　関係者の意見・意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（1）御遺族の意見・意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（2）PTA の意見・意向　・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（3）地域（公民館）の意見・意向・・・・・・・・・・・・・12

5　市内小・中学校の樹木の状況について・・・・・・・・・・12

6　今後課題と取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（1）高岡小学校のイチョウの木について・・・・・・・・・・13
（2）小・中学校の樹木について・・・・・・・・・・・・・・13

7　あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（1）事故報告作成経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（2）終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　報道記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

1　事故の概要

（１）事故発生日時

① 令和４年８月９日（火）　15 時 50 分（推定）

（２）気象概況等　現地に近い宮崎県都城市の天気状況

① 天気　晴れ

② 雲量　－

③ 気温　最低 24.5℃　最高 35.1℃　34.6℃（15 時頃）

④ 湿度　57％　(15 時頃)

⑤ 風速　１～４ｍ／分

⑥ 視程　20 km

⑦ 気象予報士による記事

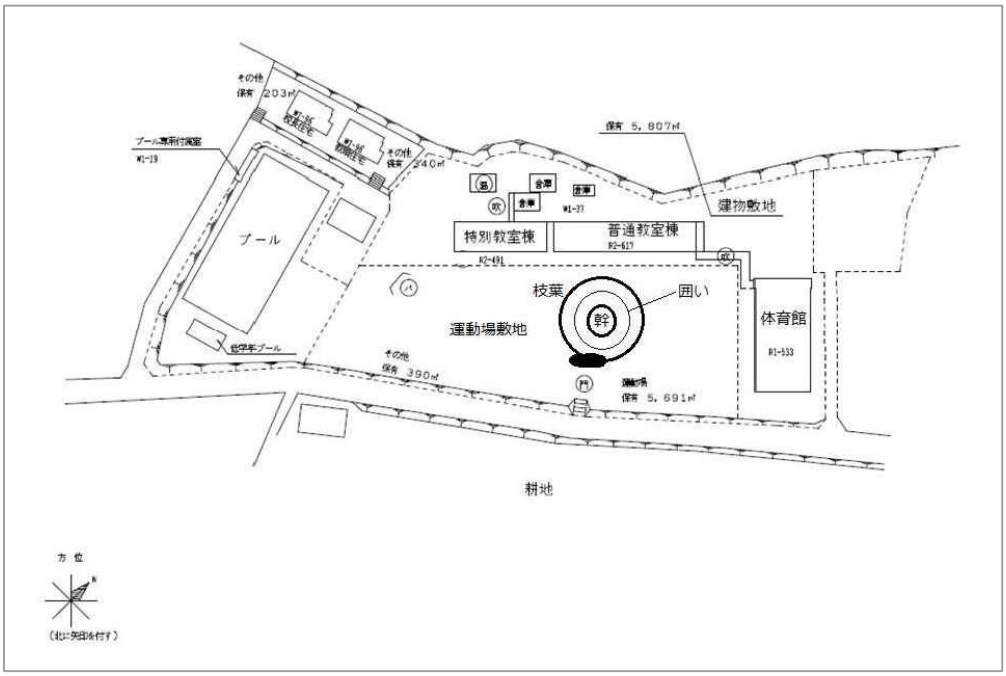
きょう 9 日九州は，太平洋高気圧に覆われるでしょう。（中略）最高気温は熊本市 36 度，福岡市や佐賀市は 35 度など，猛暑日になるところが多いでしょう。（後略）　資料：tenki.jp（日本気象協会，㈱ALiNK インターネット）

（３）事故発生場所　【図１】【写真１】

① 住所　鹿児島県曽於市末吉町南之郷 10150 番地１

② 施設名　曽於市立高岡小学校

③ 場所　校内運動場　中央付近　イチョウの木の下



【図１】　事故発生場所

【写真１】　事故発生場所

（４）人身事故状況

① 対象者氏名　　値　安子　（たもつ　やすこ）
② 生年月日（年齢）　昭和 39 年 10 月３日（57 歳）
③ 対象者　職　　高岡小学校校長
④ 状況　　死　亡

（５）事故の状況

値校長が，校庭中央付近にある樹齢 160 年以上の大イチョウ（高さ約 20m，幹回り　６ｍ）の周りの芝刈りをしていたところに，頭上にあった大イチョウの木の枝（長さ 8.4m，直径 30cm）が，落下し，校長を直撃し枝の下敷きになり，救命措置後病院に搬送されたが死亡した。

（６）死因等

① 死亡日時　令和４年８月９日（火）17 時 52 分
② 直接死因　出血
③ 原因　外傷性左胸腔内出血

（７）事故後の対応

① 事故直後の対応

花園に水かけをしていた教諭がドサッとした音で，大イチョウの下で倒れている校長に気づき，「大丈夫ですか」と声をかけたところ，「うっ」と言う声を聞いたので木をどけようとしたが動かなかった。

教諭は隣接する高岡児童クラブに助けを求め，地域住民が，曽於警察署と曽於北部消防署に連絡した。その間，地域住民と教諭でＡＥＤによる措置と，人工呼吸と心臓マッサージを繰り返し行ったが校長の反応は全くなかった。

② 救急車到着後の対応

曽於市消防組合より救急車が現場に到着後ドクターヘリが要請され，米盛病院より医師が同乗したドクターヘリが「南之郷（みなみのさと）」（旧　南之郷中学校）敷地に到着したが，医師の判断により，ヘリによる搬送は行われず，救急車に値校長と医師を乗せて，昭南病院へ向けて出発した。ドクターヘリは，昭南病院からの転院に備えておおすみ弥五郎伝説の里で待機した。

２　樹木の状況

（１）事故当時の状況

高岡小学校のイチョウは，毎年夏場に銀杏の実が付き始める。気候等の条件により実の量は，年によって異なる。昨年は，あまり実をつけていなかったが，本年は例年より多く実をつけている状況であった。（地域住民）

落ちた枝を，確認したところ，切断面が折れた状況ではなく，何らかの力が加わり，枝が裂けた状況が確認できた。【写真２・３】

【写真２】落下した枝

【写真３】折れた枝

（２）これまでの管理状況

平成 30 年 7 月に襲来した台風７号により枝が折れたため，同年 11 月に樹木医の助言によりバランスをとるために反対側の枝も伐採した。なお，地域にも説明を行い，伐採した樹木の一部は，まな板に加工した。

令和元年８月に学校の要望により，危険と思われる小枝の伐採を行った。

令和４年２月にも同様の伐採を行った。【写真４】

なお，高岡小学校のイチョウの木を含む樹木の管理履歴は【表１】のとおりである。

【写真４】令和４年２月 23 日高岡小学校樹木伐採作業

作業日	内容	業者
R4.2.27	樹木剪定（卒業式前樹木剪定）	市内公益社団法人
R4.2.23	イチョウの木（枯枝取除き）、支障枝剪定	市内造園業者
R3.3.4	樹木剪定（卒業式前樹木剪定）	市内公益社団法人
R2.8.31	高木伐採剪定等作業	市内建設会社
R2.2.21	樹木剪定（卒業式前樹木剪定）	市内公益社団法人
R1.8.9	樹木伐採	市内建設会社
H31.3.15	樹木剪定（卒業式前樹木剪定）	市内公益社団法人
H31.2.1	樹木伐採	市内建設会社
H30.11.2	樹木伐採委託（台風 7 号倒木処理・枝剪定）	市内協同組合
H30.3.1	樹木剪定（卒業式前樹木剪定）	市内造園業者
H28.10.18	台風 16 号倒木復旧作業	市内造園業者
H28.9.7	高木伐採	市内公益社団法人

【表１】高岡小学校樹木管理履歴

（３）イチョウの木について

岡山県農林水産センター森林研究所　西山嘉寛のギンナン栽培による研究の中で，ギンナンの隔年結果（結実）について，「ギンナンは自然状態（自然交配）により，受粉・結果（結実）をさせるため，結果（結実）量が多い翌年には，樹は体力の消耗を防ごうとするため，自然と結果（結実）量を低下させると考えられる。」との記載がある。

このことから，イチョウの結果（結実）量は，隔年で多い年と少ない年があることが予想される。

高岡小学校のイチョウは，令和３年は結果（結実）量が少なかったが，令和４年は例年以上の結果（結実）量であるように思われるとの関係者からの意見が聞かれた。今回落下した枝にも多量の結果（結実）が確認された。

（４）木材としての利用

イチョウの樹木を木材利用した際の特性について，一般財団法人日本木材総合情報センターの WEB サイトに次のように示されている。

イチョウという名前を聞くと，明治神宮の周辺のイチョウの美しい並木道を

思い浮べる人はいても，その木材に思いがゆく人は少ないでしょう。よく考えると，大きな木になるのですから，それからは木材が採れても不思議ではないのです。イチョウは木材としてスギやヒノキのように，材木屋で売られているのを見ることはないでしょう。イチョウの葉は広葉樹のように広いですが，裸子植物で，その木材の組織は道管をもたず，その点では針葉樹に近いといえます。中国原産で，日本には古くから，街路樹や庭園樹として植栽され，馴染み深い樹種の一つです。

〇木材

心材と辺材の色の差はほとんどありません。やや黄色味を帯びた白色です。早材と晩材の差が明らかではないので，年輪はあまりはっきりとはしていません。したがって，均質な木材です。肌目は精で，木理は通直です。硬さは中庸で，気乾比重は 0.55 です。加工はしやすく，仕上がりのよい木材です。耐久性は低い。

〇用途

人工造林をするようなことはないので，大量に使われることはありませんが，古くから，使い方を知っているような分野では，この木材の長所をよく利用して使っています。碁盤や将棋盤用としてはカヤよりは，数段廉価ですが，カツラよりは高く評価されていたようです。彫刻（木魚，印判），漆器木地（越前，若狭，大内：板物），まな板など，肌目が精で，加工しやすいことを利用した用途が知られています。

木材特性表（※原木の強度ではありません）

イチョウ（G.biloba） の特性表						
気乾比重	平均収縮率（%）		強さ(MPa)			曲げヤング係数(GPa)
	柾目方向	板目方向	曲げ	圧縮	せん断	
0.55	0.10～0.13	～0.20	82.5～107	43.2～55.9	9.4～11.8	10.4～13.2

出典：「世界の有用木材 300 種」農林省林業試験場木材編
公益社団法人 日本木材加工技術協会 1975

３　事故の検証

（１）樹木医による検証（曽於市農林振興課）令和４年８月 10 日

事故翌日に，折れた枝を市の技術者（樹木医）が調査した。

【写真５】落下した枝

その結果，樹の内部に腐朽した形跡は見られない。生木の状態に何らかの力（風や自重）が加わり樹が裂けているようである。【写真５】

（２）日本樹木医会鹿児島県支部による検証　　令和４年９月 12 日

高岡校区公民館長のもと，一般社団法人日本樹木医会鹿児島県支部長，樹木医２人，教育委員会で，イチョウの木の現地調査を行った。

報告書の一部を掲載する。

① 調査内容

イチョウの生育環境は，高岡小学校の校庭の中心に生育し南側に県道があり法面上の台地が校庭となっている。周囲は里山，畑があり里地となっている。

イチョウの周囲は杉丸太とロープによる柵が設置され，さらにその外側に事故後設置されたと思われるロープ柵が設置されている。周囲は芝生状になり草本植物に覆われている。また，周囲には日照不足の原因となる樹木及び建造物はない。(写真 1)

イチョウは西側に大きく樹皮がなく開口となっている。腐朽部分はスポンジ状の部分が無く，腐朽処理されウッドファインと思われる腐朽防止剤が塗布してある。また，腐朽部分から白色腐朽菌のコフキサルノコシカケの子実体（キノコ）が数か所で発生している。(写 1～５）また腐朽部の上部に不定根の発生の兆しがある。(写 4)

樹形は四方に伸びて自然樹形に近い。樹冠部に小枝の枯れが若干あるが，太

枝も多く東南側の高さ約７ｍにある太枝が枝の途中で折れている。（写真 5）また枝葉も多く，重心は上にある。

写１

写２

写３

写４

写５

② 考察

当該木の周囲の環境は，日照不足となる支障木や建造物もなく良好な状態が形成されており，根系もロープ柵内で植栽基盤が守られており良好な環境が保たれている。

幹は，西側の腐朽部分に白色腐朽菌のコフキサルノコシカケの子実体（キノコ）があるために，木質部内部まで腐朽していると思われる。

樹勢は，枝が四方に伸び葉が多く葉色や大きさに異常はなく，樹形も自然樹形に近いため，イチョウ自体の重心は上部にある。

そのために，イチョウ上部の緑量に対して幹下部に腐朽部分があるために，将来腐朽部分で幹折れする可能性がある。よって，イチョウ上部の太枝を強剪定して重心を下げる必要がある。

なおイチョウは，一般的性質で強剪定に耐えるために，剪定による枯死の可能性は少ないと考える。

また，不定根の兆しがある箇所は誘導装置を設置して地面まで誘導して腐朽部を塞いで幹化することも必要と考える。

危険度は，今回，太枝が折損して落下して事故が起こったために，大枝の折れの可能性が高く，幹下部の腐朽部分が大きいために，幹折れの可能性がある。

結論として現在の樹勢は良好であるが，緑量が多く幹腐朽があるために，強

剪定を行い重心を下げる必要がある。

③ 対策

イチョウについて現在考えられる対策を述べる。

〇剪定

剪定は，全体の樹形を見ながら楕円状に剪定する。高所で作業するために，高所作業車やクレーン車を使用して枝裂けを防ぐために枝下に切り込みを入れた後，上部から切断する。切断面は腐朽を防ぐために腐朽防止剤を塗布する。

〇腐朽部処理

腐朽部は，木質内部まで腐朽している可能性が高いが，現在腐朽を完全に治癒する治療方法はない。そのため，今後子実体が発生する可能性が高いため，物理的に発生した子実体を撤去し腐朽防止剤を塗布するしかない。

なお，腐朽部上部の不定根を地上まで誘導して幹化することも必要である。

〇定期調査

当木は，現在樹勢は普通であるが，経年で樹勢が変化する可能性がある。そのため樹勢の変化や枝の落下等による危険性に留意して変化が現れたら早急に樹勢回復することが必要と考える。

④ さいごに

当該木のイチョウは，今回不幸な事故があったが高岡小学校のシンボルツリーであるために，保護育成に図らなければならない。そのために，細心の注意を払い樹勢変化に注意して充分な検討を重ね，最善の方法を模索して枯死する危険性をできるだけ排除して保護育成を図り後世に残す努力をする必要があると考える。

（３）その他

今回のイチョウの枝落下事故についての事件性の有無について，曽於警察署生活安全刑事課を訪問したが警察では，原則として遺族以外への説明は実施しないとの回答であった。

４　関係者の意見・意向

（１）　御遺族の意見・意向

令和４年８月 27 日に御遺族が，地域住民に挨拶された概要は次のとおりであった。

① イチョウの木は残してほしい。

② 剪定する際に，小枝だけではなく危険と思われる太い枝も伐採して安全

に配慮した形で残してほしい。

③ イチョウの木コンサートを継続してほしい。そのことが値校長の供養になる。

④ ギンナンの実を拾うのは，今年は危険を伴う恐れがあるので止めてほしい。

（２）PTA の意見・意向

令和４年８月 18 日に高岡小 PTA の連絡会を行い次のとおりの意見集約がなされた。

① 県派遣のスクールカウンセラー，市のスクールソーシャルワーカー，及び心の教育相談員が児童のケアにあたってほしい。

② 新任校長が赴任するまでは，指導主事を派遣してほしい。

③ 早期に樹木の診断を行い，伐採等の必要な安全策を講じてほしい。

④ 養護教諭や学校活動支援員を当分の間，増配置できないか。

⑤ 運動会は延期する方向で検討する。

（３）　地域（公民館）の意見・意向

校区の役員・自治会長には，「そのまま残して欲しい」とか，「根元から伐採するべきだ」との少数意見もあったが，多くは「剪定等の安全対策を講じた上で，地域のために残してほしい」との方針で集約されたとの意見であった。（校区公民館長）

５　市内小・中学校の樹木の状況について

令和４年８月 22 日から９月１日まで学校の樹木の点検を行った。

小・中学校における樹木調査　（本）

学校№	学校名	高木 3m 超	項目6m超	落葉果樹	学校活動に影響のある樹木
調査者		小・中学校の教職員			樹木医 教育委員会
1	末吉小	59	26	8	12
2	檍小	65	21	23	1
3	高岡小	24	15	3	23
4	岩北小	50	24	4	17

5	岩南小	23	4	2	17
6	諏訪小	63	3	3	28
7	光神小	41	8	4	28
8	深川小	198	144	5	46
9	柳迫小	34	20	4	17
10	岩川小	2	0	2	0
11	菅牟田小	25	9	2	25
12	笠木小	55	37	1	13
13	大隅北小	75	37	2	8
14	恒吉小	170	85	19	51
16	月野小	90	59	2	14
17	財部小	39	30	8	11
18	財部北小	50	16	6	11
19	財部南小	115	54	24	32
20	中谷小	10	0	0	6
小学校　計		1,188	592	122	360
51	末吉中	24	20	16	6
52	大隅中	78	64	1	21
53	財部中	46	40	31	30
中学校　計		148	124	48	57
合計		1,336	716	170	417

６　今後の課題と取組

（１）高岡小学校のイチョウの木について

学校のシンボルでもあり，地域からも親しまれた木であることを踏まえ，樹木の健康状態に留意しながら，学校や地域の代表者との協議のもと大幅な剪定を行う。なお，剪定作業は，樹木医に指導を仰ぎながら森林組合で行う。

（２）小・中学校の樹木について

これまで，小・中学校では，省庁からの通達等により，昭和 35 年頃から「学校緑化活動」に取り組んできた。学校環境緑化実施要項の趣旨は，“学校環境緑化は，学校が，教育の一環として学校およびその周辺に草木を植栽し，管理する活動であって望ましい教育環境を整備しあわせて児童生徒の学習活動

に資することを目的にする。”

これを機に，学校では様々な草木が植栽されてきた。あわせて卒業時や各種記念行事の際にも，学校敷地内に植栽が実施されてきた。

一方，学校における校内施設・設備の安全は，学校保健安全法施行規則や建築基準法などの定期点検で実施するようになっているが，樹木管理に関する明確な基準は示されていない状況である。

曽於市教育委員会では，今後次の指針を定めて学校の樹木管理を適切に行っていくこととする。

① 学校施設内への樹木の植栽は，原則として行わない。但し学校長が必要性を認め教育委員会が許可したものは，この限りではない。

② 学校で定期的に実施される安全点検の項目に樹木も追加する。なお，点検方法は，国土交通省の「都市公園の樹木点検・診断に関する指針（案）」に基づいて行う。また，結果（結実）樹木については，写真等を撮影し結果（結実）状況などを毎年確認することも必要である。

③ 教育委員会は，学校敷地内の樹木について定期的に樹木医の診断を仰ぐものする。（定期的：１年～３年）

④ 上記の点検及び診断で，学校活動に影響のある樹木又は不必要とされた樹木については，計画的に伐採・剪定等を行うこととする。

７　あとがき

（１）事故報告作成経過

調査報告作成経過	
日付	経過
令和４年８月９日	事故発生
８月９日	警察による現場検証
	大隅教育事務所へ報告
８月 10 日	落下した樹木の撤去
	報道機関への説明
８月 18 日	PTA との連絡会
８月 19 日	県教委スクールカウンセラー配置
８月 22 日	御遺族来庁
８月 25 日	御遺族来庁
８月 22 日～9 月１日	専門家・教育委員会による全校樹木調査
８月 27 日	校長住宅転出・遺族挨拶
９月 12 日	樹木医会調査

10 月 5 日	樹木医会報告書
10 月 12 日	定例教育委員会報告
10 月 14 日	高岡小イチョウの木剪定
10 月 28 日	御遺族報告
12 月 1 日	庁議報告
12 月 9 日	議会全員協議会報告
12 月	公表

（２） 終わりに

今回の事故において，死亡された値校長先生の御冥福を心からお祈り申しあげます。また，御遺族の皆様からは，地域の皆様に励ましの言葉もいただきました。

曽於市教育委員会としては，事故の原因究明や今後の対応を検討してきました。この報告書では，不十分な点もあると思いますが，学校における樹木を含めた安全な学校施設の維持管理に努めていきます。

最後に，原因究明や今後の対応について御助言をいただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

令和４年 12 月

曽於市教育委員会

【南日本新聞　令和４年８月10日（水）】

折れた枝直撃 校長死亡

曽於・高岡小、芝刈り中

9日午後3時50分ごろ、曽於市末吉町南之郷の高岡小学校の校庭中央付近にある大イチョウの下で芝刈りをしていた値安子校長(57)に、折れたイチョウの枝が直撃した。校長は病院で死亡が確認された。

曽於署などによると、イチョウは高さ約20㍍、幹周り約6㍍。折れた枝は長さ約8㍍、直径約30㌢で、十数㍍の高さから落下した。樹齢は160年以上と推定されている。死因や枝が折れた原因を調べている。

値校長は同日朝から手押し式の芝刈り機を使って1人で作業。午後も作業を続け、校舎にいた教職員が「ドサッ」という音に気づいて校庭を見たところ枝が落下。駆け付けると校長があおむけに倒れ、枝の下敷きになっていたという。

大イチョウは同校のシンボル。PTAが中心になって約20年前からライトアップをしたり、収穫したギンナンを販売して教材費や地域活動費などに充てたりしてきた。住民によると、5年ほど前に伸びた枝などを伐採。2年前の台風では幹が裂けたという。値校長は昨年4月に赴任。近所の50代女性は「とても熱心な方で、こまめに作業されていた。こんなことになるとは」と肩を震わせた。

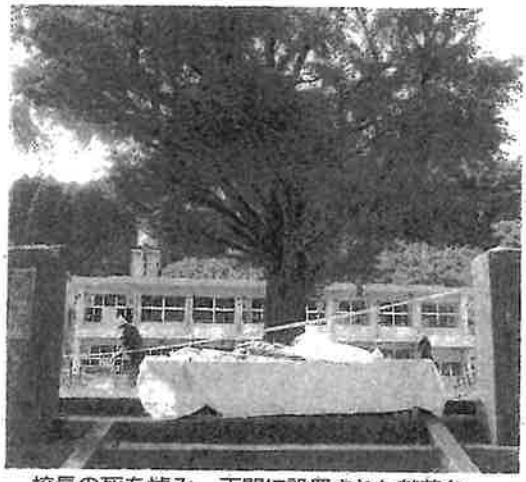
イチョウ（右）と折れた枝（左）＝9日、曽於市末吉町南之郷の高岡小学校

【 南日本新聞　　令和4年 8月11日（　木　）】

全22校の古木調査へ

曽於市教委 校長死亡事故受け

曽於市末吉町南之郷の高岡小学校で、折れた大イチョウの枝の下敷きになり校長が死亡した事故で、市教育委員会は10日、全小中学校22校の古木、老木の状態を調べることを決めた。出校日（19日）前後をめどに、県がスクールカウンセラーを派遣し、全児童6人と教職員の心のケアに対応する。



校長の死を悼み、正門に設置された献花台＝10日、曽於市末吉町南之郷の高岡小学校

事故は9日、校庭中央付近にあるイチョウの下で芝刈りをしていた植安子校長（57）に、十数㍍の高さから落下した長さ約8㍍、直径約30㌢の枝が直撃した。曽於署によると、死因は胸部圧迫などによる失血死と判明した。

10日、樹木医の資格を持つ市職員が折れた枝の切断面を調べた結果、朽ちた部分は見つからず、生木だった。枝にはギンナンの実がぎっしりなっており、かなりの重さだったとみられる。市教委によると、2月に業者が小枝を伐採した。

同校は死を悼み、正門と校舎入り口に献花台を設けた。中村涼一教育長は「痛恨の極み。住民にとても愛された校長先生だった。死を無駄にしないため再発防止に全力を挙げたい」と話した。（中島裕一郎）

樹木管理に学校苦慮

曽於の校長死亡

曽於市の高岡小学校で9日、木の下で芝刈りしていた校長(57)が折れた枝の下敷きになり死亡した事故を受け、鹿児島県内の学校は樹木管理に苦慮している。県教育委員会は校内の点検を求めたが、樹木が法的な点検対象になっておらず再発の懸念は残る。伐採しようとすれば、地域のシンボルを守りたいという住民の反発を招く恐れも。2学期を控え、校内の安全確保のあり方が問われている。

正門の前に立つ「高岡小の大木たち」の看板。後方は枝が折れた大イチョウ　＝曽於市末吉町南之郷

法的根拠なく・住民感情配慮

事故が起きたのは、校庭の高さ約20㍍の大イチョウ。推定樹齢は160～170年。学校正門の看板に「私たちのほこり」と記され、2001年からライトアップやコンサートが定期的に開かれるなど、児童や教職員、地域住民の心のよりどころとなってきた。

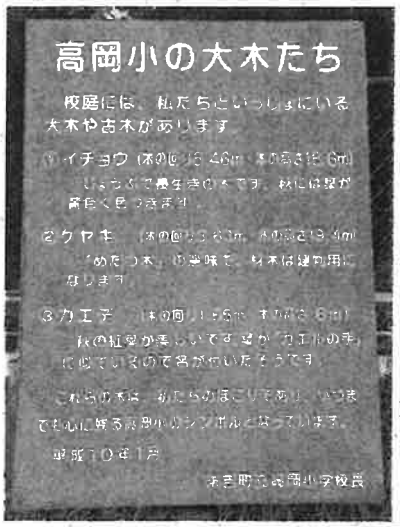
市教育委員会によると、通常は校長からの要望に応じ枝を伐採。今年2月には小枝を処理した。それだけに事故の衝撃は大きい。

◆対応に差

文部科学省によると、校内施設・設備の安全は、学校保健安全法施行規則や建築基準法といった法律に基づく定期点検で保つ。法律は具体的な点検対象を定めておらず、マニュアルで破損やひびの有無といった例を示している。マニュアルには「樹木に邪魔な枝はないか」との項目もあるが、明確な基準はなく対応に差が出ている、としている。

事故を受け文科省は10日、学校内の樹木を点検し必要な措置を講じるよう全国へ通知。県教委も12日、各市町村教委や県立学校へできるだけ早い結果報告を求めた。ただ、過去に同様の死亡事故を把握していない県教委は「まず情報集めに努める」と話す。鹿児島市教委は事故を受け、盆明けから市内の全公立校へ造園業者などの派遣を始めた。

今後の対応について、曽於市の中村涼一教育長は「十分に予算を組み専門業者に管理を徹底してもらうか、不必要と思われる樹木は伐採していくか。どちらかしかない」と悩ましげだ。



高岡小の大木たち

校庭には、私たちといっしょにいる大木や古木があります。

①イチョウ（木の回り5.46m　木の高さ18.6m）
いちばんで最も古い木です。秋には葉が黄色く色づきます。

②クヤキ（木の回り3.63m　木の高さ13.4m）
「めだつ木」の意味です。材木は建材用になります。

③カエデ（木の回り1.55m　木の高さ8m）
枝の紅葉が美しいです。葉が「カエルの手」に似ているので名がついたようです。

これらの木は、私たちのほこりであり、いつまでも心に残る高岡小のシンボルとなっています。

平成10年1月

末吉町立高岡小学校長

正門に立つ「高岡小の大木たち」の看板。「木は私たちのほこり」と記されている　＝曽於市末吉町南之郷

◆安全第一

危険があってもすぐ伐採できるとは限らない。

鹿児島市のある小規模小学校は、教職員が目視を中心にチェックする。同校管理職によ？　状態の悪い樹木を伐採する際、難色を示す住民の声が届いたことがあるという。心情に理解を示しつつも「児童や職員の安全が最優先と納得してもらうしかない」と話す。

鹿児島市内の別のある小学校長は、昨年度まで赴任していた離島の小学校で大きく成長した木2本の枝を切り、校舎裏の木もすべて伐採した。経験を踏まえ「切った直後は地域から悲しむ声も聞かれたが、児童の安全が第一と決断した。地域や行政と連携し取り組むべきだ」と強調する。

文科省は地域のシンボルとされる木がある現状を踏まえ、10日付の通知で「対策を慎重に判断することが望ましい」としている。

曽於市教委幹部は、学校の現状について「優先すべきは人命。実態は〝子どもたちの校庭〟というよりも〝樹木のための校庭〟になっていないか」と語る。安全優先を第一に伝統をどう保つか。具体的取り組みが求められる。（中島裕一郎、新澤杏菜、鶴園悠太）

思い胸に前へ進もう

曽於・高岡小 犠牲の校長悼む

鹿児島県内の多くの公立学校で2学期が始まった1日、夏休みの作業中にイチョウの枝が落下する事故で校長(57)が亡くなった曽於市の高岡小学校でも始業式があり、児童らは犠牲を悼みつつ新たな一歩を踏み出した。鹿児島市内の一部学校では、前日までに校内の樹木を専門業者が点検・伐採。新学期以降の安全管理対応に追われた。

高岡小の牧山真之教頭によると、始業式は全児童6人が出席した。牧山教頭は、生前の校長が児童自ら挑戦することを望んでいたとのエピソードを紹介し「思いを胸に前に進もう」と語りかけた。子どもたちは普段と変わらない様子だったが、目を潤ませる児童もいたという。

曽於市教育委員会によると、事故後の調査で市内全22小中学校に高さ3㍍以上の樹木は計1279本あり、亀裂が入るなど異常な状態が7校で12本見つかった。県森林技術総合センターの現地調査によると、折れた枝は上空に向かい伸びる「徒長枝(とちょうし)」。落下した枝は根元から折れており、風や雨・結実などの力が常時加わりやすい部分だという。中村涼一教育長は、1日の市議会本会議で「50～60年経て管理できないものもある。安全第一にきちんと対応する」と述べた。

今回の事故を受け、鹿児島市教育委員会は盆明けから市内小中高119校へ専門業者を派遣。31日までに腐食などで危険性が高いと判断した明和小をはじめ4小学校で伐採や枝切りを終えた。明和小の井上貴文校長は「樹木点検は学校だけでは難しく、安全な状態で新学期を迎えられて良かった」と話した。市教委は台風シーズンを控え、手入れの必要がなかった9校を除く106校は9月中に対応を終える方針。

（中島裕二郎、小手川美子）

訂正

2日付「思い胸に前へ進もう」の記事で、「『徒長枝』。」とあるのは「『徒長枝』とみられる。」、「根元」とあるのは「途中」の誤りでした。おわびして訂正します。

【南日本新聞　令和４年９月７日（水）】

194校に要注意樹木

県教委調査　枝切り・伐採28校

鹿児島県教育委員会は6日、曽於市の高岡小学校で8月発生した校長の死亡事故を踏まえた校内の緊急点検結果を公表した。8月末までに報告があった県内41市町村と県立学校で、注意を要する樹木があるのは計194校。うち28校は8月中に枝切りや伐採といった対応を終え、残る166校は近づくことを禁止したり看板を設置したりした。

6日の定例会で説明した。県教委によると、報告があった総数は755校（一部幼稚園を含む）。今回は、国土交通省の「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針」案を参考に点検を求めた。

注意が必要とされた194校の内訳は市町村立校が157、県立校が37。枝切りや伐採を終えたのは市町村立校で26、県立校が2。

8月末までに報告がなかったのは霧島、南九州の両市。霧島市には小中高48校、南九州市は小中20校があり、いずれも専門家が調査中。各市教委は「点検終了後に（県教委へ状況を）報告する」とした。

県教委学校施設課の内村幸二課長は「市町村教委には、専門家に聞いた上で必要な対応を取るよう助言していく。県立学校でも専門家に相談し対応を検討する」としている。

（小手川美子）

枯れ木を伐採する業者＝8月31日、鹿児島市の明和小学校（北村茂之撮影）

【朝日新聞　令和４年９月８日（木）】

194校に「要注意」樹木

県教委　校長死亡事故受け点検

倒木の可能性があるなど注意が必要な樹木が、少なくとも県内194の公立学校にあることが県教育委員会のまとめでわかった。曽於市の小学校で8月、校長が折れた木の枝の下敷きになって死亡した事故を受け、市町村や学校などに緊急点検を求めていた。

学校施設課によると、8月末までに霧島市と南九州市を除く755の小中学校、高校などから点検結果の報告があった。

それによると、枝が落ちているなど注意を要する樹木が194校であった。内訳は高校など県立学校が37校、小中学校など市町村立学校が157校。うち28校は枝切りや伐採を済ませた。残りの学校は応急処置や立ち入り禁止の対応をとっているという。

事故があったイチョウの木と折れた枝。県内の学校でこうした危険な樹木の点検が進められている＝8月9日、曽於市の高岡小学校、市教委提供

すべてが危険ではないとみられるが、記念樹などもあり、専門家に相談して今後の対応を決め、必要な対策を取る。点検中の霧島市や南九州市からも報告を受ける予定。

事故は8月9日、曽於市の高岡小学校で起きた。校庭で草刈りをしていた女性校長（57）が折れたイチョウの枝（直径30㌢、長さ8㍍）の下敷きになって亡くなった。点検は公園樹木に関する国の指針に基づいて実施するよう呼びかけていた。

（仙崎信一）

【南日本新聞　令和４年10月27日（木）】

高岡小イチョウ事故

再発防止へ枝を剪定

曽於市教委

曽於市末吉町南之郷の高岡小学校で、校長が折れたイチョウの枝の下敷きになって亡くなった事故を受け、市教育委員会は再発防止のため約20本の枝を剪定した。

事故は8月9日に発生。市教委は、管理の在り方を樹木医や地区公民館と協議。自治会長の大多数から、学校のシンボルのイチョウを残してほしいとの声が挙がり、遺族も保存を希望していることから、伸びた枝を切ることを決めた。

作業は14～16日に行った。枝周りは剪定前と比べると、3分の1ほどになった。校内にあった別のイチョウ2本とケヤキ、センダンの計4本は伐採した。

今後は1～3年をめどに定期的に診断し、必要な対策を講じる。

（中島裕一郎）

上枝切り前のイチョウ下枝切りを終えたイチョウ＝曽於市の高岡小学校

【南日本新聞　令和４年11月７日（月）】

児童の元気 値校長に届け

イチョウ落下事故 曽於・高岡小で運動会

前校長に届けとの願いを込めて演技する児童ら。後ろはシンボルのイチョウ
＝６日、曽於市末吉町南之郷の高岡小学校

イチョウの枝が落ちて校長が亡くなった曽於市末吉町南之郷の高岡小学校で6日、運動会があった。遺影が置かれた献花台に花を手向けて全員で黙とう。全児童6人は「思いよ届け」との願いを込め、競技や演技に力を振り絞った。

事故は8月9日に起き、校庭で芝刈りをしていた値安子校長が亡くなった。

10月に着任した後任の井上智司校長は開会式で「きょうは素晴らしい天気。値校長も空からご覧になっていることでしょう。練習の成果を精いっぱい発揮して」とあいさつした。

かけっこ、一輪車演技、障害物走など、はつらつとした動きに、住民から歓声が上がった。前校長が気に入っていたというお祭りソング「ええじゃないか」の演技では「先生、ありがとうございました」と空に向かって全員で感謝した。

6年丸野雲詩君は「僕たちの演技と気持ちが届いたと思う」。PTA会長の新田栄博さん(39)は「多くのみなさんの協力で無事に運動会ができた」とほっとした様子だった。

運動会は10月2日の予定だったが、事故などの影響で延期になっていた。

（中島裕二郎）